音楽科学習指導研究委員会

一　研究テーマ

「思いや意図」をもって、意欲的に表現する子どもを求めて

二　テーマ設定の理由

本委員会では、今まで１０年間上記テーマを掲げ実践を積み重ねてきた。毎年行われる教育課程研究協議会と共に、長野県音楽教育学会上小大会（平成３０年度）、全日本小学校管楽器教育研究大会長野県上小大会（本年度）等の大会を通して、多くの参会者の先生方から貴重なご意見をいただき、様々な示唆をいただくことができた。その主なものとして次のようなものが挙げられる。

○授業の中で特に「知識」について、常に楽しさと「実感」に支えられた活動の上に、児童・生徒の気づきや発見を全体に拡げて身につけさせたい。「知識」そのものの獲得がねらいではなく、知識があることによって「表現が高まり学習が深まる」ようにすることが大切である。

○つける力を明確にして教材化したつもりでも、教師側で限定しすぎた故に、児童・生徒の表現が限られてしまったり、手立てが不十分なため、曖昧な取り組みで終わってしまったりする。日々の積み重ねこそ、その見極めの力が身につく。

○日頃全ての児童を把握できないからこそ、公開授業を通して個々の児童の姿を追い、研究会で語り合うことを通して、つける力の決め出しがよかったか振り返ることができ、授業を見合うことが大切である。

○研修の機会に演習を行うことで、児童・生徒の立場で考えたり、経験が多い先生方の様々な児童・生徒の捉え方を聞いたり、グループのメンバーと話し合って演奏を創り上げたりすることを通して、児童・生徒の気持ちやつまずきを考え合うことができた。

（その他詳細は上小教育会 HP をご参照いただきたい。）

本年度は上記テーマでの研究１０年目の節目を迎えること、また来年度から小学校で新学習指導要領完全実施、中学校では移行の最終年度となる重要な年になることも考え、上記のご意見や示唆を受け、次につながる研究のまとめとなるようにしたいと考えた。

三　研究の経過

第１回　　５月　７日　総委員会　研究テーマ設定と研究計画の立案（上小教育会館）
第２回　　６月１９日　　委員会　事前授業参観（小管研授業校）
第３回　　６月２７日　　委員会　事前授業参観（教育課程授業校）
第４回　　９月　２日　　委員会　授業校の研究と研究協議運営について（教育課程授業校）
教育課程研究協議会　９月　５日　上小教育課程研究協議会　小学校
1）授業研究　題材名「2拍のリズムをつくって表現しよう(音楽づくり)」
2）研究協議　「『小学校音楽会器楽合奏』の場面での表現の工夫について、実演を伴った器楽演習(楽曲:組曲「惑星」より『木星』)」
第５回　１１月２８日　総委員会　本年度の委員会反省、「研究のまとめ」について
第６回　１１月２９日　　委員会　「全日本小学校管楽器教育研究大会：上小大会」への協力と参観

四 研究の内容

１　小学校実践①

2019 年度/令和元年度　音楽科学習指導案

日　　時：２０１９年 ９月 ５日（木）
指 導 者：長野県総合教育センター　専門主事　波場　智美 先生
題 材 名：２拍子のリズムをつくって表現しよう
授業学級：２年 （男子１７名　女子１３名　計３０名）
授業会場：第２音楽室

【全校研究テーマ】
子どもたちが友とかかわり合いながら　主体的に伝え合い
理解を深める学習はどうあったらよいか

【音楽科研究テーマ】
一人一人が願いをもち　友とかかわり合いながら
主体的に音楽づくりの活動に取り組む子どもの姿を目指して

１）　本時案

（１）主　眼

グループのリズムの感じからテーマを決めだした子どもたちが、楽器の音の出し方を試したり、どうすればテーマに近づくか話し合ったりすることを通して、思いをもって表現しようとすることができる。

（２）本時の位置（１５時間扱い中　第１３時）

前時：グループで自分の選んだ楽器とその理由を発表し合った。グループのテーマを決めた。
次時：テーマに近づけるために、グループごとに表現を工夫する。

（３）指導上の留意点

・楽器選びや奏法を決められずに困っているグループには、鳴らしたい音のイメージを問い、それに近づけることを意識するようにする。
・リズム打ちのリレーが苦手な子は、友だちと一緒にたたくようにする。

（４）展　開

	学習活動	予想される児童の反応	○指導上の留意点・支援　評価	時間
導入	１　本時の活動の見通しをもつ。 「4グループでは小鳥というテーマにしたみたいだよ。どんな演奏になるのかな。」 ２　今日のめあてを設定する。	「小鳥の小さい感じを出したいから、小さい音で鳴らそうかな。」 「高い音が鳴るから、トライアングルにしようかな。」	○自分のグループのテーマを意識できるように、各グループのテーマを確認する。 ○どんな演奏の工夫ができそうか、イメージが持てるように、発表するようにする。 ○めあてを意識して活動できるように、掲示・視覚支援する。	５分
	【今日のめあて】グループのテーマにちかづけるために　くふうしてみよう			
展開	３　グループで相談し、それぞれのテーマに合った工夫を考え、練習する。 「1～3グループは第1	「すずは小鳥みたいでいいね。」 「小さい音が鳴らしたいから弱くたたいた方がいいな。」 「タンブリンで小さくたたく	○活動がしやすいように、グループごと場所を分ける。 １～３グループは第１音楽室 ４～７グループは第２音楽室 ○楽器が決められずに困っている	10 分

	音楽室、4～7グループは第2音楽室に移動して練習してください。」	のはどうかな。」 「すずの後にカスタネットが鳴るのはどうかな。」 「木の感じがぴったりだね。」 「うまく入れない。」 「私が入るときに合図するね。」 「私のリズム、すずよりカスタネットの方がいいかな。」 「楽器をかえて練習してみよう。」 「なかなかたたけないよ。」 「一緒に練習しよう。」	子には、テーマをもとに、「どんな音が合いそうか、友だちに聞いてみよう。」と声がけする。 ○楽器はいつでもかえてもよい ○自分が入るタイミングがつかめない子には、タイミングがつかめるように「□つ数えたらすぐ入ってみよう。」「入るときに合図をしてあげよう。」と、つなげ方のアドバイスをグループ全体にする。 ○拍がそろわないグループには、拍がそろうように、教師が拍打ちを行う。	
	4　代表のグループの演奏を聴き合う。 「このグループはどんな工夫をしたのか聴いてみよう。」	「小鳥の鳴き声になるように小さい音にしました。」 「森の木の感じをカスタネットで、小鳥の感じをすずにしました。」 「すずの音が小鳥っぽい。」 「音の大きさを変えている。」 「トライアングルの響きを止めながら演奏している。」	○他のグループの表現を参考にできるように、代表のグループがリズムをたたいて発表する。工夫したところも発表してもらう。	10 分
	5　本時のめあてを確認し直す。 「このグループみたいに、テーマに合わせて工夫するんだったよね。もう一度自分たちのグループの演奏を確認してみよう。」	「ぼくたちも音の大きさを変えてみようかな。」 「そういう鳴らし方もできるのか。」 「やっぱりすずからタンブリンにかえてみよう。」 「リズムの順番をいれかえてみようよ。」	○テーマにそって演奏の工夫ができるように、本時のめあてをもう一度確認する。 **【評価】** 思いをもって表現しようとすることができたか。	10 分
	6　もう一度それぞれのテーマに合った工夫を考え、練習する。		○もう一度テーマに合った工夫を考えることができるように、他のグループの工夫を試してみる時間を設ける。	
終末	7　本時の振り返りをする。 「グループのテーマに近づけるために、どんな工夫をしましたか。」	「小鳥だから、音の大きさも小さくたたいてみたらよかった。」 「2 種類の楽器にしてみたら、きれいな感じにできた。」 「すずは手首をトントンした方が、振るよりも小鳥の鳴き声みたいにできた。」 「森の中の小鳥になるように、すずとカスタネットを交互に鳴らした。」	○子どもたちが試した奏法が分かるように問う。 ○めあてに沿った振り返り・感想をするように促す。	10 分

2）　授業研究会より

（1）

協議問題1　子どもたちの学びや互いのかかわり合いの姿、また教師の支援などから有効であった点（よかった点）や有効ではなかった点（課題点）について。

・子どもとの距離が近くあたたかさがあり、担任の先生が行う音楽の授業の「良さ」を感じた。
・音楽を日々の学級経営の中に組み込むことができるためか、多くの子どもたちがリズムを正しく打つことができていた。

・子どもたちが題名に対してどんなイメージや思いをもっているか、教師が重ねて質問をして引き出してあげる必要がある。
・導入で教師が実際に演奏しながら工夫を示していたのが、子どもたちにとって具体的に活動の見通しをもつことにつながった。
・子どもたち自身では工夫しようとしていたが、グループで共有している姿が少なかった。

まとめ：各教科の学習場面や朝の会等でも音楽的活動を取り入れて学習を深めたり、学級の実態をふまえた音楽の授業を行ったりすることを通して適切な支援をすることができた。

残された課題：子どもたち一人一人の思いや工夫を、どのようにして全体に共有していくか。子どもの実態に即した、ねらいに迫るための確かな教材研究や、新たな支援へのつなげ方。

（2） 協議問題2　グループ活動のあり方や評価のあり方について

・グループで工夫を追究する場面で、教師の質問や声がけから、自分たちのやりたいことがはっきりした。
・友だちに「楽器を変えてみたらどう。」と投げかけ、お互いに意見を伝え合っているグループがあった。
・リズムのつながりができていないことに着目してしまっているグループがあった。
・テーマの中にはあいまいなテーマもあり、イメージをもつことが難しいと感じた。
・自分のリズムをしっかりと正確に打ったり鳴らしたりすることができていた。
・中間発表を聴いて、自分たちのグループの題名をイメージした工夫に立ち返ることができた。

まとめ：自分のリズムがしっかりと打てたことで、グループ活動もスムーズに取り組むことができた。

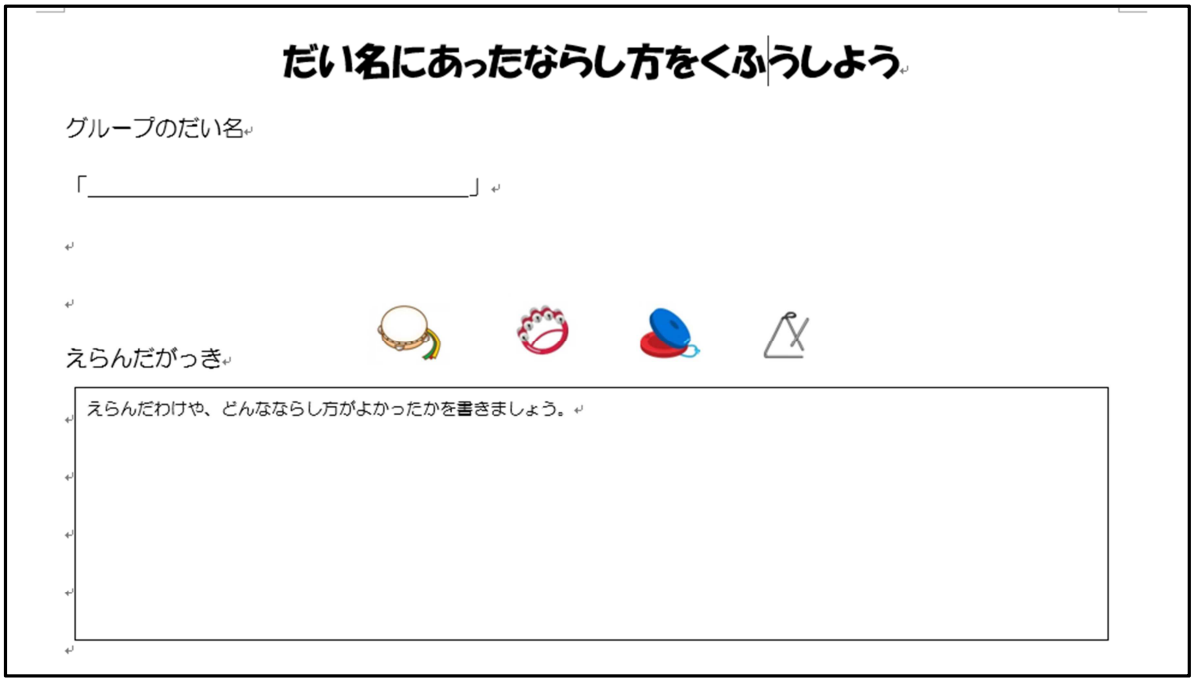
残された課題：グループ活動を行った時の一人一人の評価と支援をどのように行っていくか。

3）　指導者の先生からのご指導

・授業の前の音楽遊びは、みんなが笑顔で活動していた。低学年は遊びと学びを組み合わせて、体験的に音楽的活動をすることを多く取り入れたい。
・子どもの実態から目指したい姿を具体的に話し合い、それに向かってカリキュラムマネージメントしている。
・実際に教師が音を鳴らしてデモンストレーションや対話をしていたことで、おしつけではなく、子どもたち自身の中から興味関心を引き出していた。導入で心が動く瞬間をつくることが大事。
・教師の問い返しがイメージと音をつなげる活動の見通しをもつことにつなげていた。
・ねらいをもって近づけていくことも必要だが、試行錯誤していく中で感じられることもある。
・グループ活動にしたことで、困っている子どもには参考にする機会ができ、友だちの姿を通して自分を振り返る機会もできた。活動を止めて、他のグループの演奏を聴くことで、メタ認知をしていた。
・２年生には考えていることを伝えることが難しいため、教師が思いを引き出すために問い返しをしていたことが有効だった。最後まで工夫を見届けて共感することが大切。
・自分たちが考えた題名にイメージをもつことが音の工夫につながる。例えば、題名の下に副題をつけるとイメージがもちやすくなる。
・リズムは中学年や高学年までの学習につながっていくため、１・２年生の時にどれだけ素地を作って

あげられるかが重要。
・音楽づくりの評価にかかわって、１時間の中では活動の様子などを一人一人見ることが難しいが、単元やまとまりごとに評価していくようにする。
・出来ばえではなく、目標に向かっていく姿で評価する。子どもたちが目標に向かって満足できる演奏にしようとしていることが大切。
・自分の思いやイメージを表に表現する活動は音楽だけではない。題名に近づけるために工夫することの難しさを感じたが、今後、他の教科でも生かしていきたい。

４）　資料


だい名にあったならし方をくふうしよう

グループのだい名

「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」

えらんだがっき

えらんだわけや、どんなならし方がよかったかを書きましょう。

２　小学校実践②

２０１９　全日本及び東日本小学校管楽器教育研究会長野大会より

管楽器に接したことのない子どもたちが、管楽器に初めて触れ、体験し、管楽器の特徴や音の鳴る仕組みを理解したり、鑑賞したりすることをねらう授業　～小学校３年生～

題材名・教材名：「いろいろな音のひびきを感じとろう」　B 鑑賞
：『聖者の行進』黒人霊歌

1）　題材設定の理由

本校では、今年度より音楽会が２学期（１０月）開催となったこともあり、１学期は歌唱や器楽の活動を中心に学習活動を進めてきた。今年度は様々な楽器を体験させたいという学校長の願いもあり、器楽活動に重点を置き、器楽の活動と関連づけた指導計画の工夫をしてきた。

ト音記号の読み方を覚える学習の中では、全員が木琴や鉄琴を使って階名唱しながら「ゆかいな木きん」を演奏する活動に取り組んだ。また、鑑賞曲では旋律の特徴をつかむために、主旋律の一部を鍵盤ハーモニカで演奏してみるなどの活動を行って来た。これらの活動によって、今まで経験できなかった楽器にも触れることができ、また楽器を使って自分で演奏することの楽しさを体験することができた。

６月に行った事前授業では、「トランペット吹きの休日」を、鍵盤ハーモニカによる演奏と、トランペットによる演奏の聴き比べを行った。楽器の音色の違いによって同じ曲でも印象が違って聞こえることや、トランペットの金管楽器ならではの響きのよさに気づく声も多く聞かれ、トランペット以外の金管楽器にも関心を向ける姿も見られている。これは様々な楽器に触れる経験を通して、演奏する楽しさに気づいてきた子どもたちが多くなってきたことによる姿であろうと考えている。

そこで今回はトロンボーンに注目させ、その音色の特徴やよさに気づかせたいと考えた。他の楽器にはない特徴として、スライドを動かしながら音を出すグリッサンド奏法が挙げられるが、その独特な演奏技法による音色の特徴や変化に気づかせ、よさを味わわせたい。また、子どもたち自身がトロンボーンに触れる場を設けることで、楽器の形や音の出る仕組みが体験的に理解できること、またそれによって楽曲をより深く味わい、関心を持って聴くことができる姿を願って本題材を設定した。

2）　題材の目標

本題材で目指す児童の姿（ア・・・思考力、判断力、表現力　　イ・・・知識）【鑑賞】

ア　楽器の形や奏法などを関連づけて考えたり、音色の違いを聴き比べたりして、演奏のよさを味わって聴く姿。

イ　楽器の音色や奏法が変わることで、曲の雰囲気や表情が変わるおもしろさに気づく姿。

本題材の見方・考え方

音楽に対する感性を働かせて、楽器の音色・呼びかけとこたえを聴きとることを手がかりにして、楽器を見たり体験したりすることを関わらせて、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。

学習指導要領との関連

B 鑑賞　ア・イ［主にかかわる音楽を形づくっている要素］：音色・呼びかけとこたえ

3） 評価規準

題材の評価規準	評価場面	評価のよりどころとなる児童の姿	Cと判断した児童への手立て
思考力・判断力・表現力 【鑑】 ・ア 金管楽器の音色の違いを感じとり、呼びかけとこたえによる変化を楽しみながら演奏のよさを見いだし、音楽を味わって聴いている。 ・イ 主な楽器（トロンボーン）の演奏や音の出し方に関心を持ち、進んで関わることができる。	・発言 ・学習カード ・活動場面	①トロンボーンの音色の違いを聴きとって、体験したスライドの動かし方を身体表現している。 ②トロンボーンの形や奏法の特徴を音色の特徴と結びつけて学習カードに記入している。 ③「呼びかけとこたえ」の役割がわかり、相手の音を聴いて演奏している。	・一緒に旋律を歌ったり、トランペットの演奏を思い出させたりして、形や音の違いに気づかせていく。 ・ゲストティーチャーに大きくスライドを動かしてもらい、音の面白さが感じとれるようにする。
知識 【鑑】 ・イ （イ）トロンボーンの音色や響きと演奏の仕方と関わりに気づいている。 ・ イ 曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて気づいている。	・鑑賞場面 ・発言 ・学習カード	① 管の長さに気づき、「低い音が出ている」、「スライドしておもしろい音が出ている」など発言・記述できる。 ②管をスライドさせることによって色々な表現があることに気づき、発言や記述ができる。 ②パートの役割がわかり、呼びかけの旋律ととこたえ旋律を聴きとって挙手で示している。	・既習の楽器（トランペット）の音をゲストティーチャーに出してもらい、楽器の形や音の違いを実感させていく。
主体的に学習に取り組む姿 【鑑】 ・ 楽器の仕組みから、音が鳴ったり変わったりする仕組みに関心を持ち、音色の特徴を聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ・副次的な旋律を聴きながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	・活動場面	①実際にトロンボーンを見て 「吹いてみたい」 「スライドを動かしてみたい」 「一緒に演奏してみたい」等の声が上がる。 ・音色や楽曲に合わせて楽しみながら身体表現をしている。 ・金管楽器に興味を持って体験活動に関わったり、友だちと感想を伝え合ったりしている。	・ゲストティーチャーや学級担任にも声をかけてもらい、じっさいにさわってみたり、動かしたりする場面を設定する。

4） 素材研究と教材化

教材の持つ価値	共通事項	教材の持つ価値を活かした学習活動
〇楽曲：「聖者の行進」 ・原曲はアメリカ合衆国のスピリチュアル（黒人霊歌）でディキシーランド・ジャズでもある。様々な楽器や形態で演奏され、親しまれている曲である。 ・１６小節の短い旋律で、５音しか使われていないため、リコーダーや鍵盤ハーモニカで容易に演奏することがで	・音色 ・呼びかけとこたえ	・自分たちの身近な楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ）で演奏し、旋律に親しむ。（第１時） ・低音楽器や打楽器（手拍子なども）を入れたり、速さを変えたりして演奏することを楽しむ。

きる。 ・前半部分は２つのパートでコール＆レスポンス（呼びかけとこたえ）のように演奏することができる。 **〇楽器：「トロンボーン」** ・吹奏楽やオーケストラの中では中～低音域を受け持つ楽器として位置づけられている。 ・他の金管楽器と異なりスライドをのばしたり縮めたりすることで演奏するため、スライドならではの音程の揺れや音楽表現のおもしろさを感じ取ることができる。 ・柔らかい音から鋭い音まで、音色の表現が幅広い。		・２つのパートに分かれて、コール＆レスポンスをして楽しむ。 ・実際にトロンボーンによる演奏を鑑賞したり、トロンボーンに触れてみる活動を通して、トロンボーンの形や奏法が生み出す音色の特徴に気づく。　（第２・３時）

５）　題材の指導計画（全４時間扱い）

段階	時	主な学習活動	主な教師のかかわり【評価】
導入	1	・トランペットによる「聖者の行進」の曲を鑑賞し、旋律をつかむ。	・器楽活動のレパートリーとして「聖者の行進」を紹介する。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏しやすい調の楽譜を用意しておく。
	2	・鍵盤ハーモニカで「聖者の行進」の旋律を演奏できるようになる。 ・曲の仕組み（「呼びかけとこたえ」）について理解する。	・教師→児童、児童→教師、のように演奏させ、「呼びかけとこたえ」の特徴があることに気づかせる。　**【発言内容・記述】**
展開	**3本時**	・トロンボーンによる「聖者の行進」を鑑賞する。 ・ゲストティーチャーによる２通りの「聖者の行進」の演奏を聴いたり、トロンボーンのスライドを動かす体験をしたりして、楽器や音の特徴に気づく。	・楽器や音色の特徴がとらえやすいように、ゲストティーチャーには ①　音程がはっきりした演奏 ②　グリッサンド奏法を入れた演奏 の２通りを演奏していただく。 ・始めの部分（ソ・シ・ド・レ）のスライド位置がおよそどのあたりかを示し、児童がスライドを動かし、ゲストティーチャーまたは教師がマウスピースで吹いて音を出し、トロンボーンを体験させて音色の特徴や気づいたことを出し合うようにする。　**【活動場面・発言】**
終末	4	・他の金管楽器による演奏や合奏を聴き、音色の違いや高い音や低い音の組み合わせによる変化などについて気づいたことを出し合う。	・トロンボーンの特徴についてまとめ、他の楽器への興味関心を持たせる。

６）　本時案

（１）主眼

トロンボーンによる「聖者の行進」を鑑賞する場面で、グリッサンド奏法がある演奏とない演奏を比較鑑賞したり、実際にトロンボーンのスライド部分を動かす等の体験活動を通して、トロンボーンの作り出す音の特徴や演奏のよさに気づくことができる。

（２）本時の位置（４時間中の第３時）

前時：鍵盤ハーモニカで「聖者の行進」を演奏し、トランペットによる演奏との違いや気づいたことについ

て話し合ったり、「呼びかけとこたえ」でも演奏できることを理解する。

次時：他の金管楽器について知り、様々な楽器のアンサンブルの「聖者の行進」を鑑賞し、それぞれの楽器の音の特徴やよさについてまとめる。

（3）指導上の留意点

・ トロンボーンの体験では、教師とゲストティーチャーが音を出すようにし、児童はスライドを動かす体験に集中できるようにする。

（4）展開

段階	学　習　活　動	予想される児童の反応	指導助言・評価	時間
導入	１．鍵盤ハーモニカで「聖者の行進」を演奏し、前時までの確認をする。	・みんなで間違えないように合わせよう。 ・後から出る方をやってみたい。 ・元気よく演奏しよう。	・最初にリコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏してみて、曲の感じを振り返らせておく。 ・「呼びかけ」と「こたえ」の部分を交代しながら演奏させる。	5
	２．ゲストティーチャーによるトロンボーン「聖者の行進」を鑑賞し、学習問題をつかむ。 1回目：グリッサンド奏法なし 2回目：グリッサンド奏法あり	・音が低い。大きい。 ・２回目は音がちょっとすべるような感じ。 ・象さんみたいな音だと思った。 ・「パオー」ときこえた。 ・音がふわふわした感じ。 ・右手の動きが大きかった。 ・同じ曲なのに１回目と ・手をのばしたりちぢめたりしている。 ・かっこいい！ ・手が少しゆれている。	・はじめは「スペシャルゲスト」と紹介しておき、ゲストティーチャーの登場と共に楽器名を掲示する。 ・１回目は音程のしっかりした演奏、２回目はグリッサンド奏法を入れた演奏をしていただく。	8
	学習問題：「トロンボーンの音色のひみつをさぐろう」			
	３．気づいた事を発表させ、学習課題をつかむ。		・トロンボーンの演奏を間近で見て、気づいたことや発見したことを発表させる。	3
	学習課題：「トロンボーンの楽器をさわってみたり、スライドを動かしてみたりして、トロンボーンのひみつやとくいわざを見つけよう」			
			・実際に楽器に触れてみたりすることで、更にひみつに迫っていくことを確認する。	

展	4．グループに分かれてトロンボーンを持ってみたり、スライドを動かしてみたりする。	・やっぱり音が低い。 ・スライドは思ったより長くて驚いた。 ・音をはっきりさせるのが難しい。 ・トランペットより音がやわらかい。 ・ふわーんとした音だな。 ・スライドを動かすと音が変わって面白い。	・始めの部分（ソ・シ・ド・レ）の位置を知らせ、順番に体験させていく。 ・順番を待っている（見ている）児童には ①「音の感じ」 ②「ふき方」（口のところ） ③「形」 ④「音の変え方」 に着目させ、トロンボーンのひみつを見つけるように指示する。	１５
	5．体験したことや、見ていて気づいたことから、トロンボーンのひみつと思われることを出し合う。	・トランペットみたいにボタンじゃないから音がふわふわした感じになる。 ・スライドを動かしながら吹くと、音が象さんみたいになる。 ・スライドを動かすとおもしろい音になる。	・挙手で発言させる他に、活動中の児童の発言やつぶやきも取り上げていくようにする。 ・必要に応じて、児童の発言内容をゲストティーチャーに再現していただく。	5
開	6．確認のために、身体表現をしながらゲストティーチャーの演奏を聴く。	・おさえるところがないのに正確に演奏していてすごい。 ・音がすべる感じがおもしろい。 ・いろいろな音が出せていてすごい。 ・音がかっこいい。	・児童の気づきが確認しやすいよう、少しゆっくりめのテンポで演奏していただく。 ・「聖者の行進」が『呼びかけとこたえ』の仕組みで演奏できることを振り返り、ゲストティーチャー→児童、の順で演奏する。児童はゲストティーチャーの演奏を見ながら身体表現をする。また、2 回目の演奏の際にグリッサンド奏法を入れて演奏していただく。 ***評価：トロンボーンの音の出し方の特徴や演奏のよさに気づけたか。（記述・発言内容）***	7

終 末	８．本時のまとめをする。	・トロンボーンは楽器の作りも音の出し方も違っていて、たくさんのひみつのある楽器だった。 ・ゲストティーチャーの皆さんと演奏できてよかった。 ・音に厚みが出てかっこよかった。 ・今度は自分でも吹けるようになりたい。	・子どもたちから出された考えを板書し、同じように感じている児童もいるかどうか挙手で確認する。 ・次の時間は、他の金管楽器について勉強することを伝え、まとめる。	２

７）　成果と課題

（１）成果

・　４名のゲストティーチャーをお願いできたことで、本時ではすべての児童が直接楽器に触れる体験ができ、体験を通しての気づきや発見をした発言や記述が多く見られた。
・　教科書の鑑賞教材にはトロンボーンは出てこないが、スライドという他の楽器にはない特徴を持った楽器を取り上げたことで、トランペットとは異なる形や音色の特徴の面白さに気づいた発言が聞かれた。
・　学習の中心は「鑑賞」であるが、器楽活動を取り入れたことで楽曲理解や関心が深まった。
・　実際の楽器を見たり、触れたりできる活動は視覚認知の面からもよい。

（２）課題

・　時間配分（本時は４時間計画したが、年間指導計画上は難しい）
・　楽器の保有の有無（学校によってはないところもある）
・　教師自身の経験（自らが管楽器を演奏することは難しい）
・　地域の人材をどう探せばよいか。

８）　主事指導

・　楽曲の魅力→知っている曲なのに（違う楽器で演奏すると）知らない気がする→何で？
　→感心・意欲につながった。
・　S さんの発言「音は振動だ」→自分から関わり、発見した姿があった。
・　「はちの音みたい」という発言→金管楽器の「ヴァジング」を共有できた言葉。
・　ゲストティーチャー→地域とのつながりをぜひ探してほしい。
　→地域との関わりを通して、学校とその後の人生をつなぐきっかけになれば。
・　「ひみつやとくいわざ」を見つけることで、「得意と苦手」があることがわかってくると、それが他の楽器についても学ぶ気持ちにつながる。

９）　「聖者の行進」参考資料

（１）「聖者の行進」楽器別の演奏（※You Tube に演奏画像あり）

・「聖者の行進」（トランペットによる演奏）:「めちゃモテトランペット」（ウィンズスコア出版）
・「聖者の行進」（トロンボーンによる演奏）:「めちゃモテトロンボーン」（ウィンズスコア出版）

（２）金管アンサンブル演奏（ゲストティーチャーによる）・・・「River Song Productions」（輸入版）

（３）児童による二重奏・・・教育出版「音楽　４年」より引用

３　小学校実践③

２０１９　全日本及び東日本小学校管楽器教育研究会長野大会より

管楽器を加えたアンサンブル活動で，音色の違いや音の重なりを味わいながら，強弱や音色の変化をより豊かに感じられるようにすることをねらう授業

題材名：　「いろいろなひびきを味わおう」（器楽）
教材名：　『ラバーズコンチェルト』　デニーランデル・サンデーリンザー　作曲 ／石桁冬樹　編曲

１）　題材設定の理由

本校では課外活動の一環として金管バンドクラブの活動を行っている。６年１組の児童の中にも金管バンドクラブに所属して意欲的に活動している児童もおり，クラブ員にとっては金管楽器が身近な存在となっている。しかし，金管バンドクラブに所属していない児童にとっては，金管楽器は「金管バンドクラブ員が演奏する楽器」という意識があり，「自分たちには演奏できないもの」「音楽の授業では使うことがないもの」ととらえる子どもが多い。

昨年度の研究では，金管楽器の音色を視点に，合奏の任意の１パートを金管楽器に置き換え，置き換えたことによる楽曲の雰囲気の変化を味わう体験活動を位置付けた鑑賞の題材を行った。このような学習によって，自分たちの合奏に新しい音色が加わることによって雰囲気が変化したことから，「音の重なり」についての自分なりの考えをまとめる姿が見られたり，金管楽器そのものを身近な存在として捉えられたりすることがわかってきた。

そこで本年度は，昨年度の学習を生かし，楽器固有の音色の特徴とパートの役割とをかかわらせて，パートの役割にふさわしい楽器選択を行いながら，自分たちが表したい雰囲気を実現していく題材を構想した。そこでは，録音を聴き返したり，比較して演奏を聴いたりする活動等，日常の授業でも行っている活動を位置付け，パートの役割に着目できるようにする。このような学習を通して，金管楽器をより身近な存在としてとらえ，パートの役割にふさわしい金管楽器の音色に着目しながら，自分の表したい雰囲気を表現する子どもの姿を実現したいと考え，本題材を設定する。

２）　題材の目標

本題材で目指す児童の姿（ア…思考力・判断力・表現力　　イ…知識　　ウ…技能） ア　【器楽】金管楽器固有の音色を生かしてパートの役割にふさわしい楽器選択を考えたり，表したい雰囲気が表れる音色の選択や音の重ね方を工夫したりしている姿。 イ　金管楽器の音色の特徴と，それがもたらす効果を理解している姿。 ウ　アンサンブルで使用する金管楽器や鍵盤ハーモニカの運指やブレスコントロールを身につけて演奏する姿。
本題材の見方・考え方 音楽に対する感性を働かせて，パートの役割，音色，音の重なり方の効果を視点にして「ラバーズコンチェルト」をとらえ，自分の表したい雰囲気や楽曲のもつ雰囲気と関わらせて考える。
学習指導要領との関連（新学習指導要領） A 表現（２）ア，イ，ウ，〔主にかかわる音楽を形づくっている要素〕音色，音の重なり

３）　評価規準

題材の評価規準	評価のよりどころとなる児童の姿
知識・技能	
① 曲想と音楽の構造などと関わりについて理解している。 ② 表したい音楽表現をするために必要な技能を身につけ，演奏している。	①パートの役割と金管楽器の音色の視点をかかわらせ，自分たちが表したい雰囲気に合わせた楽器選択の理由を学習カードに記入している。 ②自分たちが表したい雰囲気に合わせて，金管楽器や鍵盤ハーモニカの運指やブレスコントロールを身につけて演奏している。
思考・判断・表現	
パートの役割にふさわしい音色を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，どのように表すかについて思いや意図を持っている。	①金管楽器の音色の特徴を感じ取り，自分たちの表したい雰囲気をもとに，どのような金管楽器を使えばよいか友と話し合って試奏したり，学習カードに記入したりしている。 ②パートの役割を視点に，どのような金管楽器を割り当てたらよいかについて友と話し合って試奏している。
主体的に学習に取り組む態度	
音や音楽に親しむことができるよう，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現の学習活動に取り組もうとしている。	・金管楽器の特徴や音の重なり方に着目して演奏したり，その感想を友に伝え，他パートと合わせて演奏したりしている。

4） 素材研究と教材化

本題材における教材の持つ価値	共通事項	教材の持つ価値を生かした学習活動
○アンサンブル曲「ラバーズコンチェルト」 ・①主な旋律，②かざりの旋律，③ひびきを豊かにする和音，④ひびきを支える低音，それぞれのパートの役割を感じて金管楽器を選び，ふさわしい音色を感じながら合奏することができる。 ・１，２段目の旋律を反復，変化させた構成になっているため，それに気づかせることで多くの練習をしなくても合奏が可能な楽曲である。そのため，互いの音を聴き合いながら演奏できる。	音色 音の重なり	・主な旋律と対比した②～④パートの特徴や役割から，ふさわしい金管楽器を試しながら選び演奏する活動。 ・金管楽器の音色や音量のバランスに気を付けて，グループで表したい思いや意図にふさわしい表現を工夫して演奏する活動。 ・全体の構成を考え，表したい雰囲気になるように確かめながら自分たちの思いや意図を持って表現する活動。

5） 題材の指導計画（全５時間扱い）

主な学習活動	主な教師のかかわり【評価】
１ ラバーズコンチェルトを聴き，表したい雰囲気を設定する。 ・「ラバーズコンチェルト」の範奏を聴き，気づいたことを発表し合う。 ・自分達が表現したい「ラバーズコンチェルト」の雰囲気を考える。 ・音程やリズムを確かめながら，鍵盤ハーモニカで練習する。	・１，２段目の旋律が反復，変化されていることなど，曲の構成や特徴を感じ取って聴くよう促す。 ・楽曲の仕組みや変化を学習カードにまとめるよう促したうえで，拡大楽譜に，気づいたこと，曲の特徴や構成を視覚的にまとめ，共有できるようにする。 ・階名唱したり，鍵盤ハーモニカで演奏したりして①～④のパートの特徴や役割に気付くことができるようにする。
終末に導きたい反応：４つのパートにはそれぞれ特徴があって，役割がありそうだ。　【知識・技能②】	
２ どのような楽器選択を行えばよいか疑問をもつ。 ・①～④のパートの役割を考える。 ・①主な旋律と④ひびきを支える低音の音色が違う２種類の範奏を聴く。 ・自分が表したい雰囲気にふさわしい金管楽器について，予想をもつ。	・組み合わせる金管楽器の音色が違うと曲の雰囲気が変わることに気付くようにする。 A ①チューバ ④コルネット B ①トロンボーン ④アルトホルン ・どの金管楽器を，どのパートにすればよさそうか，考えるよう促す。
終末に導きたい反応：○○な感じは，旋律が華やかな音色の金管楽器がいいかな。　【思考・判断・表現①】	
３ 練習 ・グループに分かれ，パートの分担を決め，同じパートのメンバーで音程やリズムを確かめ合って鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・任意のパートを前時に予想した金管楽器に置き換え，試奏し録音する。	・自分が担当するパートが演奏できているかを確認しながら，運指や奏法についての技能指導を個別に行う。 ・一つのパートの音色が変わったことで，次の二点について問う。 A：そのパートだったらどの金管楽器がよさそうか。（パートの役割） B：ほかの音色だったら何を試してみたいか。（音色）
終末に導きたい反応：１つのパートの音色を変えるだけでラバーズコンチェルトの雰囲気が変わる。この音色なら，かざりの旋律かな。でも，いろいろ試してみたいな。　【主体的に学習に取り組む態度】	
４ パートの役割にふさわしい金管楽器を試奏して選ぶ。 **（本時）　※本時案参照**	・本時案参照
終末に導きたい反応：自分たちの表したい雰囲気になってきた。同じパートでも選んだ金管楽器が違うと雰囲気変わるなあ。　【思考・判断・表現②】	
５ 題材の学びをまとめる ・グループごとに発表し，響きの違いを楽しんで聴き合う。 ・この題材の学習を通して分かったことや，感じたことについて学習カードに記入する。	・相互発表・鑑賞し，演奏して効果的だった方法を共有するよう促す。 ・表れる雰囲気を比較して，どのパートになぜその金管楽器を置き換えて演奏しようとしたのか，その理由を記入するよう促す。
終末に導きたい反応：金管楽器の音色が入って，自分たちの表したいことに近づいたと思う。ただ金管楽器を選ぶんじゃなくて，パートの役割に合わせた音色っていうのがあるんだなあ。　【知識・技能①】	

6） 本時案

(1) 主眼

自分たちが表現したい「ラバーズコンチェルト」の雰囲気に合うように，１つのパートを金管楽器に置き換えて鍵盤ハーモニカと演奏し，パートの役割にふさわしい音色を選ぶ場面で，実際に演奏しながら比較して考えたり，演奏を録音して聴き返し，客観的に演奏を聴き比べたりすることを通して，置き換えた金管楽器の効果に気づき，響きを感じて伝え合うことができる。

【本時指導する共通事項】 「音色」「音の重なり」

(2) 本時の位置（５時間扱中第４時）

前時：グループで音程やリズムを確かめ合って鍵盤ハーモニカで合奏し，一つのパートを金管楽器に置き換え試奏し，録音した。

次時：発表し，互いの演奏を聴き合う。

(3) 指導上の留意点

・グループにない金管楽器を試したい場合は，ほかのグループにある金管楽器一つまでとする。
・視聴覚機器の使用を適宜スムーズに行い，子どもたちの活動が停滞しないようにする。
・ホワイトボードを使ったグループで共有できる学習シートを使うことで，グループ内の話し合いが活発になるようにする。
・音楽室が狭く全員分の椅子と机の置けない中で授業を行っているので、話し合いや演奏は通常床に座って行っている。そのため本時も通常通りのスタイルで行う。(変化への対応が苦手な特別支援学級在籍児童への配慮も含む)

【活動する部屋】

○楽屋１　楽屋２　・・・　録音をしたり，聴き返したりする
○大スタジオ奥の通路　・・・　前時までに録音した演奏を聴き返す
○大スタジオ　・・・　グループで話したり，練習したりする

(4) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・援助・評価	時間
導入	1　「ラバーズコンチェルト」の表現への思いを確認する	ア　①～④のパートにはそれぞれ役割があった。 イ　やさしくなめらかに仕上げたいなあ。どんな金管楽器を入れたらいいだろう。	・前時の活動で出たグループで表したい雰囲気を振り返るよう促す。 ・グループごとの拡大楽譜を用意する。	10
	学習問題：自分たちが考えた「ラバーズコンチェルト」の雰囲気を表現するには，どんな金管楽器を使うといいだろう。			
		ウ　コルネット，アルトホルン，トロンボーン，ユーフォニウム，それぞれの音の高さや音色が違うから何が合うかなあ。ほかにも試してみたいな。		
	【各グループが考えた「ラバーズコンチェルト」の雰囲気】 A：やさしくなめらかに仕上げたい　B：明るくはずんだ感じの楽しい曲にする C：やさしい雰囲気でなめらかにふきたい　D：やさしい堂々とした感じ			
	学習課題：いろんな金管楽器を試して雰囲気に合う楽器を選ぼう			
／展開	2　どのように金管楽器を割り当てるかをグループ毎に録音を聴き返したり，試奏したりしながら考え，表現を工夫する	エ　聴き返してみたけどどちらも雰囲気とは違うなあ。違う金管楽器でも試してみよう。 オ　やさしくなめらかな感じにしたいから、①のパートを変えてみよう。トロンボーンはなめらかだけど少し音が低い。アルトホルンは雰囲気に合うからためしてみたいな。(A) カ　④が聴こえてくるとリズムが楽しく感じていいね。コルネットの明るい音で入れてみたらよかったけど，アルトホルンでもためしてみよう。(B) キ　アルトホルンの音は②にいいと思ったけど，①になっても優しい音が響いていい。でもユーフォニウムのなめらかな音も雰囲気にあいそうだな。(C)	・パートの役割を考えて，どのパートにどの金管楽器を置き換えるか，前時の録音を聴き比べたり，実際に演奏したりしながら考えるように促す。 ・グループでの活動の仕方を確認する。 ・自分たちの考えた演奏に近づいているかという視点で聴くよう助言する。 ・選択した金管楽器をどのような理由で選んだのかを問う。 ・演奏を録音し聴き返すことで，自分たちの演奏を振り返り，表現したい雰囲気と同じか確認するよう促す。 ・グループごとの話し合いに寄り添いながら，金管楽器を取り入れることで得	25

／ 終末	3　学習を振り返り，次時への見通しを持つ	ク　なめらかな感じを大切にしたいけど堂々ともさせたい。②にどの楽器をもってきたらいいんだろう。(D) ケ　試してみたけど、どちらも自分たちの雰囲気に合っていて１つに決められない。みんなにも聴き比べてもらいたいな。 コ　パートの役割を考えながら，金管楽器を選ぶことができた。自分たちの表したい感じが表れてきていると思う。 サ　同じパートでも選んだ金管楽器が違うと雰囲気変わるなあ。	られる響きや効果について感じ取っている子どものよさを取り上げ，共有している学習シートに記入していくように助言する。 自分たちの雰囲気に合うように聴き比べながら，響きを感じて伝え合っている。 （演奏観察，記述・発言内容） ・１つのグループを取り上げ，そのグループの取り組みを紹介する。 ・振り返りの学習カード（個々）を記入するよう促し，金管楽器が入ったときの効果や演奏のよさについて記述している子どもの感想を紹介する。	10

7）　授業研究会記録　主任指導主事のご指導

授業者反省	「雰囲気」といっても、同じ雰囲気の楽器ではなかったし、感じ方が違うので迷ってしまった。
討議の柱	１　本時で行った、実際に演奏しながら比較したり録音して聴き返したりしたことの有効性について ２　ご自分の学校でこの題材を行うとしたら、どのような手だてによってねらう子どもの姿が具現できそうか ※以上２点の討議の柱について、近くの数名によるグループで話合う。
全体の話し合い	○全体にかかわる部分として意見を出していただく。
長野県安曇野市小学校の先生より	子どもから管楽器を入れたいという要望はあったのか。トロンボーンを入れたグループだったが生き生きしたグループ演奏だった。グループによって表したい雰囲気が違うので、金管の子どもがその雰囲気に合った音が出せるか、技術的に大変だったのではないか。
鹿児島県鹿児島市小学校の先生より	(質問)なぜ、チューバがないのか。チューバがあれば、今日の課題は解決されていた。
授業者	今日の授業の学級には、金管バンドでチューバを担当している子どもがいなかったため。
鹿児島県鹿児島市小学校の先生より	前の絵(楽器の)にチューバも入れてください。チューバの代わりにオルガンを入れるなどすれば良いのではないか。低音が足りないと思った。子ども達がもっていない情報を出していくのも指導ではないか。

主任指導主事のご指導

【教育事務所主任指導主事先生のご指導】

・子どもと先生の関係、子ども同士の関係が大切。外国から転校してきた子ども(来てーヶ月ほど)も友だちや学級に馴染んでいた。

・パートの役割については、専門的な知識があればもっと良くなるが、できる範囲、できる環境の中でやる方向で良いのではないか。

・掲示物に、学習経過がよく見える。

・今まで、学んできたことの上に、今日がある。今回の授業を通して、金管楽器は特別なもの、と思っていた子どもが金管楽器を身近なものと感じることができた。

『D グループの様子から』

・Dグループの②のパートは楽器が４種類使われていた。加わってくる音色によって雰囲気が変わることを知ることができた。

・前の時間の見返しとして、３回聴く。(トロンボーン、コルネット、ユーフォニウム)「トロンボーンの違和感、コルネットは、華やか、ユーフォニウムは④が良いのではないか。」などの意見には、今までの学習が生きている。最初からコルネットで演奏すると決まっていたが、となりのアルトホルンを自分のグループに借りてきてー緒にやってみる。コルネットに決めていた子ども達もアルトホルンもいいじゃないかと思った。子ども達が、このパートに合うのはどっちだろうと思った。(思考が働いた。)先生は、「迷うなら迷っていいよ。」という指導。とても良い。先生の最後の声がけが、楽器のパートに役割があるというねらいに迫っていた。

・子どもの思考を深めるため、何かと何かを比較する必要がある。

・題材をまとめるには、最後、どこへもっていくかを教師がもっていないといけない。こういうことを考えさせたいということをきちんともっていること。

・管楽器は特別なものではない。これからも授業を工夫していかなければいけない。

五 研究のまとめと課題

本委員会では本年度の実践を通して、下記のように研究を深めてきた。

① リズムに関しては義務教育９年間ですべての学習につながってくる、その年、その時に確かな素地力（基礎力）として身につけさせたい。
② 音楽づくりでイメージを表現するために「題名（タイトル）」をつけることは、とても有効である。大切にしたいのは、その題名に「やさしくそっと風が吹く」（pp でゆっくり弾く）、「あかるくふりそそぐ」（f で音が細かく、速く）というように、音楽表現に直接つながるタイトルをつけさせたい。
③ 楽曲の持つ魅力を感じたり、感性が磨かれ、音楽的にも言語的にも表現が深まったりするためには、比較することが欠かせない。（例えば、同じ楽曲を違う楽器で演奏すると、全く違う楽曲に聴こえる。そのことを考えるには、特徴を感じる感性と、それを考える思考力、相手に伝える言語化の力が必要になり、その繰り返しでさまざまな力が身についてくる。）
④ 音楽をより身近にしたり、深く感じたりするためには、音楽科の学習と共に、カリキュラムマネジメントを実践し、教科等の横断的な取り組みや、学年を超えた学習も取り入れたい。今までも、楽曲を「絵で表現」したり、歴史を「調べ学習」で学んだりと、音楽科の授業で取り組んできたが、カリキュラムマネジメントで位置づけ、学力として意識的に取り組んでいく。

上記まとめと課題をふまえ、新指導要領実施にあたり、「対話的、主体的で深い学び」を音楽科でどのように解釈してくか、「音楽科におけるカリキュラムマネジメントの在り方」をどのように行っていくか、さらに研究を深めていき、今後、本委員会から発信していければと思う。

六 委員名簿

推進係	荻原　敏行	**委　員**	栗木　文
委員長	滝沢　　深	**委　員**	栁澤　ゆかり
副委員長	金井　也寸志	**委　員**	白井　叔子
会　計	石川　里沙	**委　員**	小須田　京
記　録	金澤　明花		